

# 昭和地区仮設が完成

## 総社 22戸に被災者入居へ

西日本豪雨の被災者向けに、総社市内2カ所に計画された仮設住宅のうち、整備中だった残りの1カ所が完成し、14日、鍵の引き渡しがあった。被災者は早速荷物を運び込むなど、生活再建に向け一歩を踏み出した。(31面関連)



仮設住宅に荷物を運び入れる入居者ら14日、総社市美袋

総社市が浸水被害を受けた同市昭和地区の住民向けに、同市美袋の私有地(約4300平方メートル)を買い上げ、福島県から譲り受けた木造の仮設住宅24戸を



整備した。このうち22戸に被災者が入居し、2戸は集会所として活用する。間取りはロフト付き2DK(延べ56平方メートル)で、浴室

ランティア20人収作業を手伝った。同公民館から夫婦で移る大杉憲二さん(76)「同所」は「やっと落ち着いて暮らせる。避難所で一緒に過ごした人たちが周りにいるのが心強い」と話していた。同市は、アルミ工場の爆発や浸水による被害を受けた下原地区にも22戸の仮設住宅を建設し、9月15日に入居が始まった。県と倉敷市が同市真備町、船穂町地区6カ所に整備した計266戸も、キャンセルが出た住宅を除き、同月末までに入居者に引き渡した。(中原由華)

さんデジに動画